

# にじいろ

セクシュアルマイノリティ・ボランティアサークル

 スクランプルエッグ

[http://gochamazetamago.](http://gochamazetamago.main.jp/)

[main.jp/](http://gochamazetamago.main.jp/)



冬は例年、冬眠する当たまご。今年度は珍しく活動！サークル初となる講習会を開催しました。新しい繋がりになっていくと嬉しいなと思いつつ、活動報告させていただきます☆

## 八戸市にて、性の多様性などについて講習会を開催しました



2015年2月14日、八戸市社会福祉協議会さんの後援をいただき、「地域で共に生きる～セクシュアリティをめぐる諸問題」と題し、初めて関心をもった方にも参加いただける内容の講習会を八戸市内で開催。当日は約40名の方がお越しくださいました。ご参加、応援くださったみなさま、ありがとうございました！

### ●ボランティアで参加して

今回、参加して改めて用語や、関わりについて知ることが出来、勉強になった。私は、性についてほとんど何も知らなかった。性のあり方はグラデーションであることも、インターセックスという単語も、このサークルに入っていなければ一生通り過ぎたままだっただろう。私自身、知らなかったがために、性別の違和を感じている人達を差別していたかもしれないと思った。



講習を受けて思ったのは、幼少期から親や先生といった大人から受けた影響が大きいということだ。私は親から「女の子らしくしなさい」「行儀よくしなさい」と言われ育った。小さい頃は「そっか。女の子だから女の子らしくしなきゃいけない」と受け止められたが、大人になるにつれ、性別で判断されることに違和感を覚えた。それは身だしなみに限らず、恋愛や扱いに対してもそうだった。結婚は男女間でしか認められない社会、社会に出ると女性だからと見下す人もいる。

私は、根底にあるのが教育で、教科書にもいろいろな性があるという表記をして欲しいと思った。教育者が性別や恋愛のことで差別し、子どもたちが生きづらさを感じない様、発信し続けることが大切なのかなと思った。

(メンバー手記)

### 【東北各地でイベントを開催している団体】

- 青森国際ナショナルLGBTフィルムフェスティバル  
<http://www.aomorilgbtff.org/>
- 性と人権ネットワーク ESTO  
<http://akita.cool.ne.jp/esto/>
- 岩手レインボー・ネットワーク  
<http://ameblo.jp/iwaterainbownetwork/>
- ♀×♀お茶っこ飲み会・仙台  
<http://blog.goo.ne.jp/ochakkonomi>
- A n e g o <http://blog.canpan.info/anego/>
- やろっこ <http://sendai865.web.fc2.com/>



## ～友人の手記～ 『少し外』から見て



スクランブルエッグとの付き合いは、1年半くらいになった。2013年秋に長文のメールを送りつけたのがきっかけで、これまで色々な場所にお邪魔させて頂き、基本的には「仕事」として多くのメンバーと話をする機会を頂いた。私自身のセクシュアリティは、「ストレート」だと思っている。セクマイの皆さんの話をしっかり聞くのは、スクランブルエッグのメンバーが初めてで、以前に比べ、考え方は随分変わったように思う。少し外にいる者から見た、これまでのお付き合いの中で感じたことなどをまとめてみた。



私は大学でマイノリティーに関して学んだ。専門は宗教マイノリティーだったが、日本の、世界のマイノリティーの実情を幅広く知りたいと考えていた。自分と違うように思える人やモノについて、自分との違いがないことを知ったり新たな違いを知ったりすることが、社会に出た今も少し形を変えた仕事として続いている。今の社会に暮らしづらさを感じている人たちの凸凹が少しでも平坦なものになれば良いなあ、と思っている。

そんな中、13年夏頃にテレビで都心のセクマイの人が登場したり討論したりする番組を見た。「堂々とした人がいるんだなあ」と驚いた。裏を返せば堂々としていないことが前提の偏見混じりの意識が見え隠れする感想だが、その時はとにかく「自分も話を聞いてみたい。青森ではどうだろうか」と調べた。すぐにスクランブルエッグのHPを見つけたので、自分の関心やこれまでの仕事のことなどを書き連ねたメールを送った。ほどなく返信が届き、そこから付き合いが始まった。一応仕事としての付き合いだったが、仕事の結果として一応の形で成就するには長い時間がかかった。

これまで、ざっと数えただけでも30人ほどのセクマイの方と会う機会があった。メンバーの人もいればそうでない人もいた。仕事で会った人もいれば仕事抜きであった人もいた。知人を紹介してくれた人、抵抗を感じながらも話をしてくれた人、今でもプライベートでの付き合いが続いている人もいる。今思えば当たり前のことだけど、青森にこれほどたくさんのセクマイの人がいる、ということに最初は単純に驚いた。私がかつて所属していたコミュニティにもセクマイの人はいたんだろうなあ、と振り返った。また、これからは自分のすぐ隣には声を上げようか上げまいか悩んでいる人たちがいるんだ、ということもよく分かった。これまでに時間を取ってお話して下さった皆さんに、とても感謝している。これからはよろしくお願いします。



私自身の考え方で一番変わったのは、自分がレッテル貼りやカテゴライズを無意識にしていたことと、今ではその必要性をあまり感じなくなったことだった。最初の頃は、対面して話を聞いている人を「レズビアン」や「FTM」など言葉や記号に当てはめて理解しようとしていた。分かりやすくはなるかもしれないが、血液型で人のタイプを4つに分類できないように、様々な性のあり方を数種類の単語で分類するのは無理だった。それぞれに違いがある。そのことが分からず、混乱して頭を抱えていた時期もあった。

男性と結婚した経験を持ち、今ではレズビアンとして暮らす方に「では、男性との結婚や生活は嫌だったのですか」と聞き、「その時はそんなこともなかった。けれど徐々に自分のことが分かっていった」と話してもらった時。『F T M』は便宜上の表現で、Xに近い気がするけど自分でもよくわからない。変わるかも」という説明を受けた時など、単純な言葉や記号では理解できず、頭に「？」がいくつも浮かぶことがよくあった。同じ方に何回も話を聞いて、まずはそれぞれの生き方や考え方を理解していくことで、ようやく「それぞれの性」、「多様な性」の存在が実感として分かってきたような気がした。個人への理解から、徐々に全体への理解に広がっていったように思う。ここに至るまでには時間がかかり、それまでに（今もですが）多くの人に不快な思いをさせたことを申し訳なく思っています。

長い時間がかかって感じたのは、性のあり方は濃淡もあるし、曖昧な部分もあるし、整理できない部分もある、という「今更」なこと。それぞれの違いは性格と同じように様々な程度の違いがあると感じた時には、すでにメンバーの皆さんの多くと仲良くなっていて、わざわざ頭で考えて行動を変える必要もなくなっていた。そして、自分の中の曖昧さを見つめ直す機会にもなった。



「多様な性」の理解には時間がかかったが、目の前の人の性のあり方を理解して受け入れることは、私にとってそれほど難しいことではなかったように思う。もちろんそれは人によって違うものだとも思う。偏見を強く持っている人が聞き手だったら、ハードルは高いことも分かる。私がメンバーの皆さんと親しくしているのを、面白おかしく聞いてくる会社の同僚などもあった。私のまわりの人には私なりに説明して理解を得ようとしている。



最近では偏見や誤解を含みながらではあるかもしれないけど、セクマイへの共感、あるいは少なくとも嫌なイメージは持たない人が増えつつあるのではないかなあ、と思う。偏見や差別は、違いに強く焦点を当てることで出来上がった社会的なもので、その違いに無理に焦点を当てているめがねを取れば、あとはその人と気が合うとか合わないとか、人間同士の関係になっていくと思う。徐々に、社会全体のめがねの度数が低くなっている、というのは楽観的過ぎるのだろうか。私も、その度数の低いめがねをかけているからこそ、みなさんの話を真剣に聞きたいと考えて、不十分ながらそれなりに理解できているのだと思う。

私はお付き合いの中で、「助ける」とか「支える」という関係が、少し難しく感じる。「一緒に頑張る」とかが良いのかなあ、など思っている。スクランブルエッグの特徴の一つに、外に向けて活動する顔を持ちながらも、肩に力を入れることなく「まあ、できることをやっぺいこう」というやや緩めのスタンスを保っていることが挙げられると思う。持続可能な活動には、メンバーが居心地の良さを感じることは大事な要素、という考えに共感する。私も、ゆるゆると、できる範囲のことをしていきたいと思っている。

## 【1/17、わいぐ交流会に参加しました】

今回はセクマイ以外の色々なボランティア団体がいる中での活動だった。皆さんがセクマイのことを知っているか不安だったが、あからさまに否定されることはなかった。しかし、発表の後に実際に交流してみて、自分たちのことがなかなかうまく伝わらない部分もあったように感じた。

ただ「自分たちを理解して欲しい」と主張をするだけでなく、その時代の思想や教育、それぞれの背景があって、マイノリティのことをすんなりとは受け止められない場合もあるのかもしれないということを、自分たちも理解しておかなければいけないと思った。少しずつ地道に活動していきたい。

(輝斗)

## 【同性カップルへの「パートナーシップ証明」！ 渋谷区から始まった新たな動き】

2015年2月、東京都渋谷区が、同性カップルを結婚と相当する関係として認める「パートナーシップ証明」を行う条例案を提出し、大きな話題になりました。

条例案では、カップルが相互に任意後見人となる契約や、区の規則で定める事項についての合意契約などが公正証書で交わされていることなど、証明のためにはいくつかの条件がありますが、区民や事業者はこのパートナーシップ証明を尊重することとしています。アパートへの入居やパートナーの急病時の手続きなど、これまで認めてもらいにくかった二人の関係を公的に証明できるものになりそうです。

同性婚に関しては様々な反論や誤解、法律の解釈があり、なかなか議論が進みにくい面があります。その中で発表された、国の制度とは別の自治体としての取り組み。今後の広がりに注目ですね！

(創)

## 【昨年11/1、アピオあおもり秋まつりでの 講座が終了しました】



今回のアピオ秋まつりの講演で、私は同性婚を取り巻く世界と日本の現状についてお伝えしました。同性婚の認められている国、それに準ずるパートナーシップの認定国をはじめとして、各国の例を取り上げて認められるまでにどんなことがあったのかを発表しました。

来場者の方々も知識の有無は幅広かったため、世界の現状を見聞きして驚く方も多かったです。

現在の日本では同性婚は制度として認められておらず、代替として養子縁組の制度を利用するカップルもいますが、近年は同性カップルの結婚式をプロデュースする企業など、性マイノリティカップルに対する動きは広がりを見せている、ということをお伝えしました。

その後の質疑応答でも、活発な議論が交わされ、当事者の立場からの意見、非当事者からの意見など忌憚なく頂きました。

私自身が知らないこと、新しい見方も多くあり、相手に伝える立場ながら教えられることもありました。

大学時代の研究テーマで同性婚を取り上げていた関係で、発表者として白羽の矢が立ちましたが、非常に貴重な経験となりました。

(にし)

## ☆☆☆メルマガ登録受付中！！☆☆☆

スクランブルエッグでは、メールマガジンを時々発行しています！登録は無料です(^-^)

「無理せず楽しく、自分達の生活を大事にしながら、できることをしてみよう！」というのがモットーの当たたまご。イベント自体は年に2~3回程度ですが、開催のお知らせのメール等を配信させていただく予定です。

登録ご希望の方は、件名に「メルマガ希望」と入れて、[gochamazetamago@yahoo.co.jp](mailto:gochamazetamago@yahoo.co.jp) までご連絡ください！

## 【にじたまの主な設置場所】

青森県立図書館／青森市民図書館／青森県男女共同参画センター「アピオあおもり」／青森市男女共同参画プラザ「カダール」／弘前市立図書館／弘前市民参画センター／弘前大学／FMアップルウェーブ／藤崎町ふれあいずむ館／平川市文化センター／スポカルイン黒石／五所川原市立図書館／八戸市立図書館／八戸市図書情報センター／八戸市市民活動サポートセンター「ふれあいセンターわいぐ」／十和田市民図書館／三沢市公会堂／むつ市立図書館